

## とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年8月8日

### 1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・5歳児「原っぱと畑探検・・・バッタが見つかるかな」

<テーマ設定理由>

園地内に畑を借りている。毎年、年長児がさつま芋を育てている。草むしりをして、畝づくりをし、さつま芋の苗を植える収穫までの経験をしている。畑に草むしりに行く機会に、子ども達が草や土、虫などの自然に触れ、子ども達が何に興味関心を持ち、次の探究活動につながっていくか？発見を楽しめるようにしていきたい。今回はバッタを見つけて捕まえる活動を行う。

### 2. 活動スケジュール

年長児になって始めて畑の草むしりに行き、グループごとに原っぱで自然に触れる。さつま芋も畑でさつま芋の生長を楽しみにして、収穫までの間に水撒きや雑草抜きなどを通して大切に育てている。今回は雑草抜きや、水撒きで訪れた畑仕事の後、子ども達が興味を持っている虫探し、とりわけ大量に発生しているバッタ探しでの探究活動を行う。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・原っぱで見つけた自然物を直ぐに調べられるように、昆虫・草花のミニ図鑑を持っていく。
- ・虫かご（飼育ケース）
- ・カメラで写真を撮って後で調べられるようにする。
- ・飼育に必要な子どもが考えたものを、原っぱから園に持ち運ぶ。

### 4. 探究活動の実践

<活動内容>

・子ども達の中で原っぱ＝虫探しができる場所となっており、今日も水やりが終わったら虫探しに没頭している。虫かごを持って行くことで自由に捕まえられることができるのが楽しい様子である。今日はバッタがたくさんいて、子ども達も夢中になって捕まえていた。かなりの量を捕っていたのでせっかくならばクラスで飼育して観察するのが面白いと思い、持ち帰っている。段ボールに入れたりして動きを見ているが、逃げてしまったりするので子ども達と考えながらバッタの飼育ができるようにしていきたい。

・9:45頃出発、日差しは暑かったが日陰は風が心地よく涼しかった。久しぶりの散歩と暑さもあり、歩き方が間を空けて歩いたりお喋りに夢中になっている様子であった。9:50頃原っぱ着。虫探しが夢中になっている。特にバッタがたくさんいる時期で、何匹も捕まえて虫かごに入れている。10:20頃原っぱを出発。10:25園着。その後はシャワーを行いさっぱりして過ごす。その後の室内遊びでは原っぱで捕ってきたバッタを大きな段ボールに入れて観察を楽しんだり、朝担任がつかめたガの幼虫を観察したりして楽しむ姿がある。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

子ども同士の会話

- ・「ここにバッタいそう！」「じゃあ、そっち見てみようよ」など、見通しを持って場所を相談する会話。
- ・「いた！ちっちゃいの！」「どこどこ？」「ここ、葉っぱのうしろ！」と、発見を知らせ合う会話。
- ・「この葉っぱ食べてるのかな？」「もっと入れてあげようよ」と、餌や世話のしかたを話し合う会話。
- ・「ぼくが持つから、〇〇ちゃんはふた開けて」「逃げないようにそっとね」と、役割分担や捕まえ方を相談する会話。

子ども同士のやりとり

- ・見つけたバッタを「見せて」「いいよ」と順番に見たり、ケースに入れたりする中で、譲り合ったり交代したりするやりとり。
- ・バッタが逃げてしまったときに「一緒にさがそう」と声を掛け合い、協力して探すやりとり。
- ・まだ触るのが怖い友だちに対して、「こうやって持つと大丈夫だよ」と見本を見せたり、そっと手を添えてあげる支え合いのやりとり。
- ・違う場所で見つけた子が「こっちにもいたよ」と呼びに行き、小さなグループができて一緒に観察する広がりのあるやりとり。

子どもの発見・気づき

- ・「葉っぱがかじられてる。ここにバッタがいたのかな」「こっちの草のほうが多いね」など、環境とバッタの関係に気づく姿。
- ・「さっきより高く跳んだ」「足が長いからジャンプできるんだね」と、体のつくりと動きの違いに注目する発見。
- ・ケースの中を見て「バッタは何を食べるんだろう」と、生き物が食べて生きていることに気づく発見。
- ・バッタ探しの中で足元の土や草、水の感触・匂い・音など、五感で季節や自然の変化に気づく姿。

このような会話ややりとり、発見の積み重ねから、子どもたちの探究心・協同性・命へのまなざしが育っていることが読み取れると思います。



### 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・草のかけをのぞき込んだり、水たまりやサツマイモ畑にも目を向けたりするうちに、「どこならバッタがいそうか」を友だち同士で話し合いながら試す姿が見られ、身近な自然の中での主体的な探究活動になっていた。
- ・この活動では、子どもたちが草むらに入りバッタを探したり、捕まえたバッタのために葉っぱや石を集めて飼育環境を整えたりする姿から、「自分たちで考えてバッタの捕まえ方、飼育の仕方を探究する心」が育っていることを実感した。
- ・バッタが見つかったと、子どもたちは「ここにいた」「葉っぱを食べている」などと気づきを言葉にして伝え合い、発見を共有することで互いの視点の違いに気づく場面が多くあった。
- ・虫かごの中で動く様子をじっと観察し、「狭いとかわいそう」「葉っぱをもっと入れてあげよう」と話し合う姿から、生き物への思いやりや命を大切にする心も育まれていると感じた。
- ・草むらをかき分けて進んだり、小さなバッタを逃さないようにそっと手を伸ばしたりする経験を通して、生き物を大切にする気持ち、小さい虫に対する思いやりが育まれているのではないかと感じた。
- ・暑さの中でも水筒を持ちながら友だちと声を掛け合い、「もう少しさがしてみよう」と粘り強く取り組む姿から、体力や意欲の面でも大きな成長が見られた。
- ・子どもたちが興味をもったタイミングで、虫かごやペットボトル、水など必要な環境を整えることで、遊びが単なる「虫取り」で終わらず、継続的な観察や保護活動へと発展していくことを改めて学んだ。
- ・子ども自身の問い「どこにいるのかな」「何を食べているのかな」を大切にしながら、次は図鑑や写真を使った調べ活動や、観察記録づくりなどへつなげていきたいと感じた。